

ワークシート・資料編

注：ワークシート中の◆は留意事項
斜体字は生徒が実際に挙げたもの（以下同じ）

1 ワークシート

ワークシート1

「持続可能な社会」をめざして

これまでの学習を通して、日本を「持続可能な社会」にしていくためには、何が課題で、何をしていけばよいのだろうか？

◇ 「持続可能性」の観点から、現状の日本の課題を洗い出してみよう。

ブレインストーミングをして、思いついたものをとにかくたくさん書いてみよう

◆実際に生徒がまとめたものに関しては、「2 生徒の成果物」参照。
 ・外国人労働者の受け入れ ・外国人児童への教育 ・高齢者介護問題 ・農業
 ・女性活躍の推進 ・男性による育休の取得 ・性的少数者への支援策
 などが他に出てきた。

※まずは自分一人で考えてみる。3分経ったら周囲の人と見比べてみよう。
他の人のアイデアは赤でワークシートに記入

◇ まとめた課題の中で、自分が一番重大な課題だと考えるものは何？その理由とともにまとめよう。

一番重大な課題	男女格差
理由	日本は海外に比べて男女格差が大きいと指摘されている。収入格差や育児休業の問題などは多方面に問題を及ぼしているから、この問題をまず解決する必要があると思うから。

これらを踏まえて、仮説を立てよう

日本を「持続可能な社会」にしていくためには

が課題ではないだろうか。

その理由は、

だ。

◆このような形式でまとめさせるのは、最終的にレポートをまとめる際にこの部分を参照させて書かせるためである（以下同様）。

ワークシート2

◇ 前回まとめた, 仮説を検証するため, 課題の現状を整理しよう。

内容	出所

仮説の検証をしよう

といった現状から

日本を「持続可能な社会」にしていくためには

が課題である。

◆授業では, インターネットで情報を収集する場合, なるべく公官庁や報道機関のデータを利用するように指示している。また, できたら書籍も参照するように話をした。

◇ 課題を解決するための方策を考えよう。

- ・上にまとめた現状を打破するためには、どのような政策を実施する必要があるのかまとめよう。実際に行われている政策でも、自分で考えたものでもよい。できるだけたくさんのアイデアを出してみよう。

◆実際に生徒がまとめたものに関しては、「2 生徒の成果物」参照。

仮説を立てよう

日本を「持続可能な社会」にしていくためには、課題は

--

であり、

それを解決するためには、

①

②

が必要ではないか。

その理由は、

①

②

である。

◆活動が停滞している生徒には、まずは課題を取り扱っていそうな中央省庁のホームページを参照させ、白書などの刊行物を調べるように指示した。

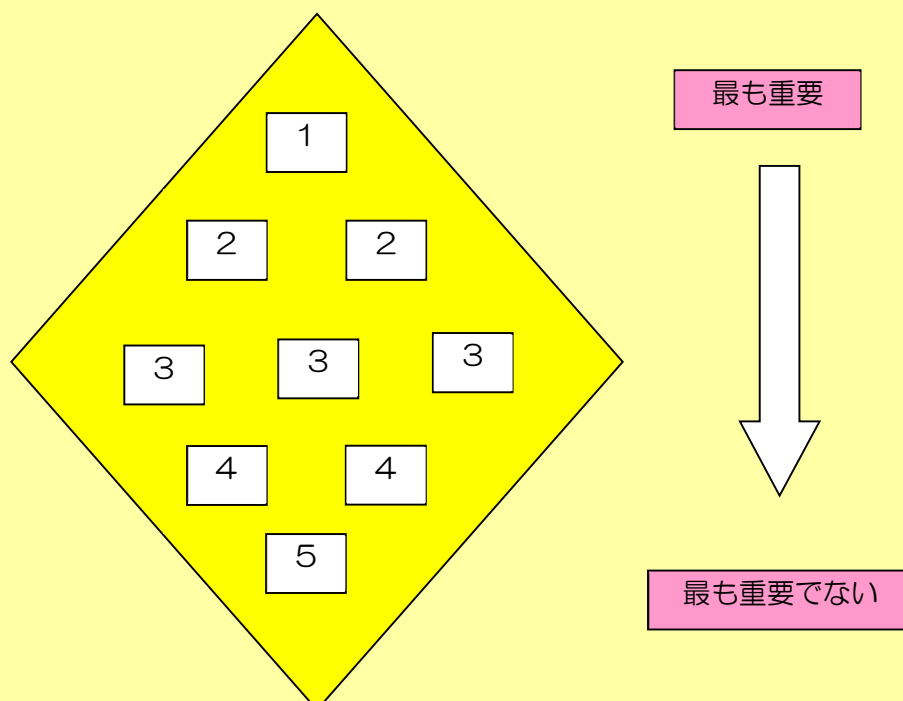
ワークシート3

◇ 前回のワークシートにまとめた内容を班でシェアし，政策を整理しよう。

※アイデア整理の方法として今回はダイヤモンドランキングを活用します。

ダイヤモンドランキングのやり方

グループで出された9の政策について，日本の課題を解決し，持続可能な社会にしていくために最も有効だと考えるものを一つ，2番目を二つ，3番目を三つ，4番目を二つ，最も有効ではないと考える政策を一つ選んで下図のようにダイヤモンド型に並べ，政策のタイトルを書く。



◆ダイヤモンドランキングはシンキングツールの一つで，複数のアイデアを価値付けて整理する際に有効である。

🔗「持続可能な社会」の実現のため、日本が抱える課題を解決するためにはどのような政策を推進していくべきですか？資料を参考にしてグループでランキングを作成しよう。

【1位の理由】

【5位の理由】

◆実際に生徒がまとめたものに関しては、「2 生徒の成果物」参照。

🔗グループでの話し合いを通して気付いたことを書こう。

🔗ほかの班の発表を聞いて気付いたことを書こう。

ワークシート4

1 年 組 番 (名前)

課題内容

持続可能でよりよい国家・社会を築くために、現在の日本の課題は何なのか。またそれを解決していくためにはどのような政策を実施していけばよいのだろうか。あなたの考え及びその理由について 400～600 字程度でまとめなさい。

[illegible]

																				600

◆実際に生徒がまとめたものに関しては、「2 生徒の成果物」参照。

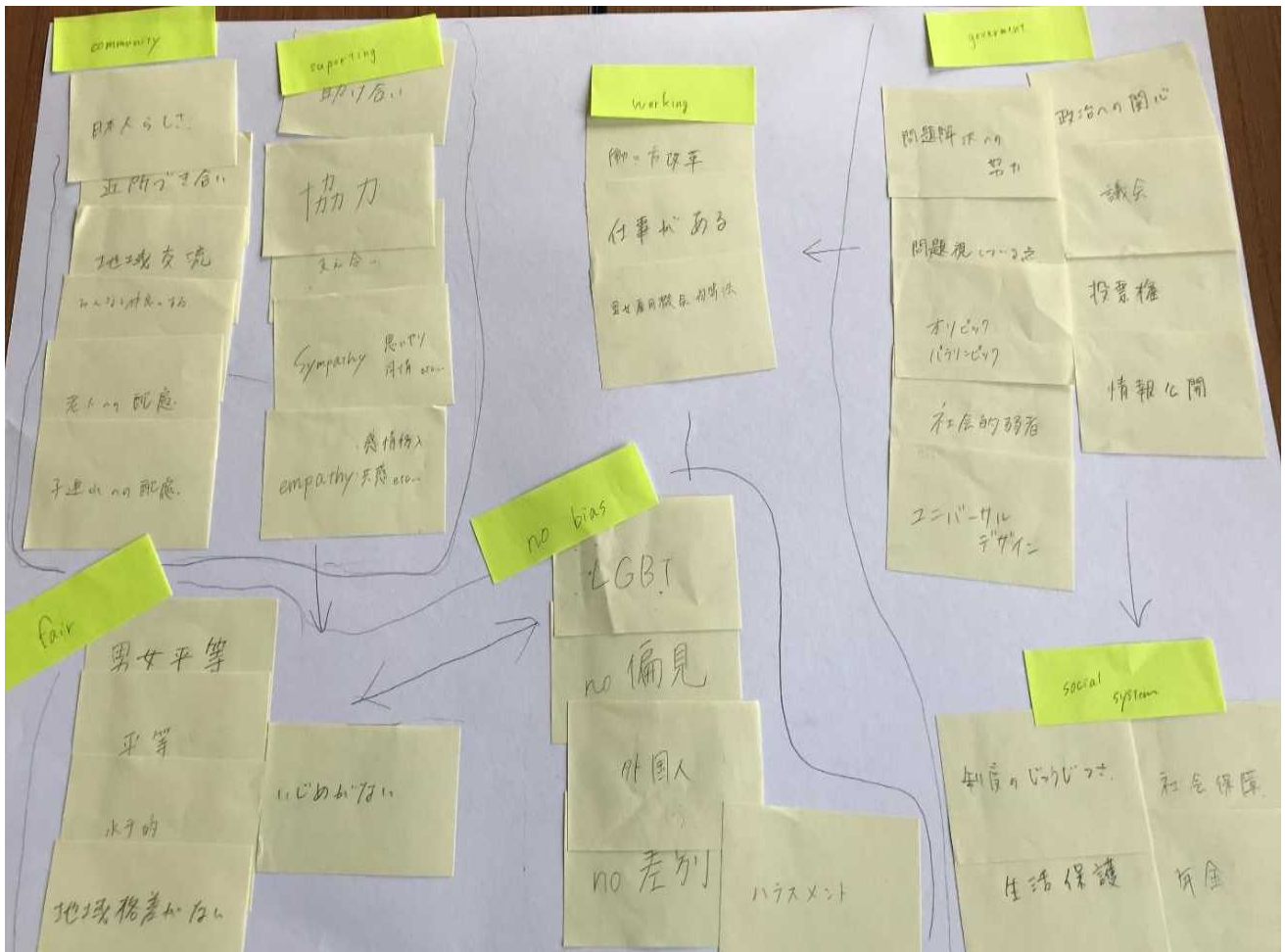
【自己評価】

	A	B	C	評価
①論理的説得力	自分の意見が論理的かつ明確に説明できている。	自分の意見が論理的に説明できている。	論理的に説明できていない。	
②多面的思考	多面的・多角的に考えられている。	多面的に考えられている。	多面的に考えられていない。	

 ここまでの学習を終えて、感想や自分の学習上の課題を書こう

2 生徒の成果物

(1) ワークシート1 ブレインストーミングの結果



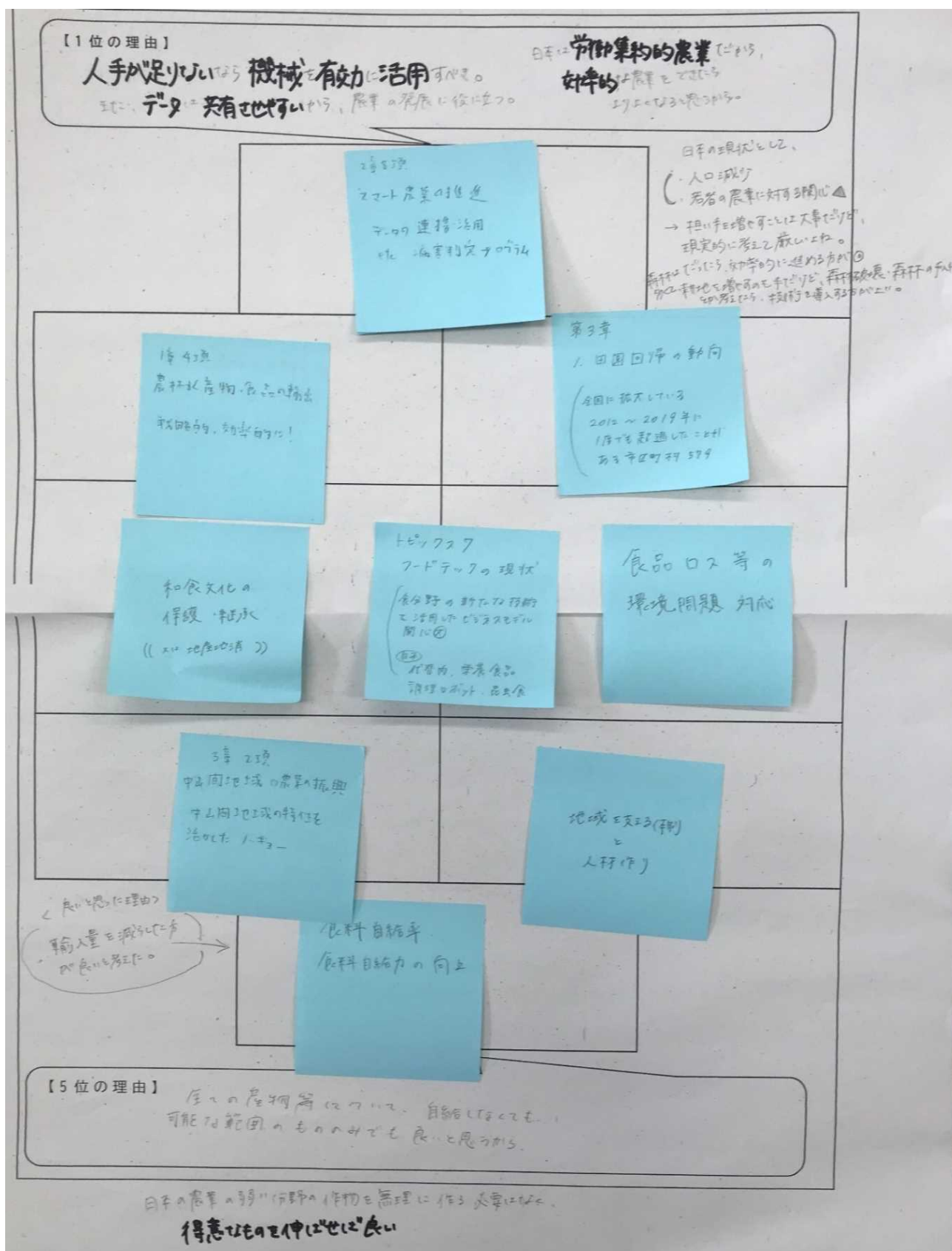
(2) ワークシート2 生徒が考えた政策をまとめたもの

◆農業を課題としたグループのもの

第1章、 「食料の安定供給の確保」 5. 消費者と食・農との つながりの深化 ▷ 地産地消の取り組み 和食文化の保護・継承	・各地域の郷土料理の歴史・由来、レシピを選定し、メニューをまとめる。 ・料理教室等にて郷土料理、健康料理を学ぶ。	米の消費量自体が減少しているのは農家に大きなダメージを与えていると思う。そのため、日本は特徴をもった地域や文化があることを生かし、魅力を伝えていくことで和食文化を維持する必要がある。
第2章、 「農業の持続的な発展」 8. 情報通信技術等の活用 (※農業生産・流通現場のイノベーションの促進) ▷ スマート農業の推進	・農業関連データを連携・活用できる「農業データ連携基盤」(WAGRI) ・農機から得るデータを活用し、見える化(データAPI)	日本の農業は、労働集約的農業。資本効率の面で悪い。データを用いて有効・効率的に使うことが大切だと考えている。
第3章、 「農村の振興」 6. 農村を支える新しい動きや活動の創出 ▷ 地域を支える体制づくり	・公共施設の維持管理や地域イベントの運営等に取り組む ・「地域運営組織」の形成 ・「関係人口」の増加に向けた、農山漁村体験・体験農園の取り組み促進	日本の農家が年々減少しているため、人材確保には必要があると思う。また、地域運営組織の形成は、町おこしにもつながると思う。

※「(令和2年度)食料・農業・農村白書」(農林水産省 2021年)を参考文献としている。

(3) **ワークシート 3** 生徒が作成したダイヤモンドランキング



(4) ワークシート4 生徒が最終レポートで作成したもの

◆この生徒は、農業が課題であるという前提に立って、今後の日本が推進すべき農業政策について論じている。

今	後	の	日	本	は	ス	マ	ー	ト	農	業	を	導	入	す	る	必	要
が	あ	る	と	思	う	。	ス	マ	ー	ト	農	業	と	は	ロ	ボ	ット	技
術	の	活	用	に	よ	る	新	た	な	農	業	だ	。	ス	マ	ー	ト	農
業	の	導	入	に	よ	る	利	点	に	は	以	下	の	点	が	挙	げ	ら
れ	る	。	1	つ	目	は	肉	体	的	な	負	担	を	軽	減	で	き	る
点	だ	。	ロ	ボ	ット	を	農	業	に	取	り	入	れ	る	こ	と	で	、
収	穫	、	運	搬	作	業	な	ど	、	肉	体	的	に	負	担	が	大	き
く	、	危	険	な	作	業	か	ら	解	放	さ	れ	る	。	そ	れ	に	よ
り	、	女	性	や	高	齢	者	が	農	作	業	に	参	加	し	や	す	く
な	る	。	2	つ	目	は	デ	ー	タ	活	用	に	よ	り	新	規	参	入
し	や	す	く	な	る	点	だ	。	作	物	の	生	育	状	況	や	気	候
に	よ	る	影	響	な	ど	、	経	験	に	頼	る	場	面	が	農	業	で
は	多	く	見	ら	れ	る	。	し	か	し	、	作	物	の	生	育	デ	ー
タ	を	蓄	積	し	、	分	析	す	る	こ	と	で	、	こ	れ	ま	で	感
覚	的	に	判	断	し	て	い	た	作	業	を	デ	ー	タ	か	ら	判	断
で	き	る	よ	う	に	な	る	。	経	験	の	浅	い	農	家	で	も	的
確	な	判	断	が	で	き	る	よ	う	に	な	れ	ば	、	若	者	の	新
規	参	入	に	期	待	で	き	る	。	し	か	し	、	ス	マ	ー	ト	農
業	を	導	入	す	る	課	題	と	し	て	、	コ	ス	ト	と	サ	ポ	ー
ト	体	制	が	あ	げ	ら	れ	る	。	ス	マ	ー	ト	農	業	で	活	躍
す	る	製	品	は	高	価	で	、	小	規	模	農	家	が	購	入	で	き
な	い	と	い	う	課	題	が	あ	る	。	近	年	は	、	製	品	の	低
価	格	化	や	、	レ	ン	タ	ル	の	活	用	拡	大	に	よ	る	普	及
が	進	ん	で	い	る	。	ま	た	、	モ	バ	イ	ル	端	末	な	ど	を
あ	ま	り	使	わ	な	い	人	や	高	齢	の	人	に	と	っ	て	、	電
子	機	器	を	使	い	、	日	々	の	デ	ー	タ	を	活	用	す	る	こ
と	は	難	し	い	。	ス	マ	ー	ト	農	業	の	普	及	に	は	、	情
報	通	信	技	術	に	つ	い	て	の	知	識	を	伝	え	る	人	材	の
育	成	を	含	め	た	サ	ポ	ー	ト	体	制	の	構	築	が	必	要	だ

(5) ワークシート4 生徒の学習の振り返り

自分の意見の根拠の肉付けが足りないなと思いました。

日本の農業をどうするかという、明確な解答がないテーマについて、みんなで考え、発表し合うことで、いろんな意見や方法が見えてくるので、選択肢が増えて農業の可能性も高まると思いました。

また、みんなで議論をすると、よりよい方法にたどり着けるなと思いました。

今回の授業を通して、日本の農業の知識を学ぶだけでなく、問題点の改善方法を考えたことで、より深い学びになったと思う。また、クラスの前で発表や班の人の意見を聞くなどの交流をしたことで、自分では思いつけなかったより良い政策を見つけることができた。今回はクラスの前で発表することから逃げてしまったので、次の機会があったら、もっと積極的に自分の意見を発信していきたいと思う。

◆この単元の評価は(4)・(5)を基に行った

3 参考文献

- ・『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（高等学校編）』国立教育政策研究所 (<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>)
- ・「(令和2年度)食料・農業・農村白書」農林水産省 2021年
- ・「高校 政治経済(新訂版)」実教出版
- ・「最新図説政経」浜島書店